お盆を過ぎると、少しずつ暑さも和らいでくるものですが、
今年のこの異常な暑さは、何と十月頃まで続くとか・・
その他自然災害も多発し、地球自体がおかしくなっているのでは・・
と心配しています。
俳句では、秋立つと秋の涼しさを詠むのですが、この暑さの中では
それも難しいですね。

今回は夏の季語。
うさおさん、健さんの暑い夏を拝見しましょう。
まずうさおさんの句です。

雲湧きて扇子忙し堪え難し

雲湧く　扇子忙し　堪え難い・・一つの句に
三つの事柄は少し欲張りすぎかな。
詠みたい事一つだけに焦点をあてた方がはっきりとした
句になると思います。

扇子・・・忙しなき男の握る扇子かな
雲・・・・挨拶は皆一言や雲の峰
堪え難い・堪え難き中を凌ぎてなほ残暑

瀬戸内の積乱雲の筍（じゅん）伸びて

どこまでもムクムクと伸びる積乱雲ですね。積乱雲で伸びる様子は
わかりますので、瀬戸内の様子を入れると良いのでは

＊瀬戸内の海色深く雲の峰

足もとを跳ねて博多は雷雨なり

面白い良い句です。リズムも良いので楽しい気分になりますね。

おお熱しボンネットは地獄なり

おお熱し・・が気になります。　＊炎天や地獄のごときボンネット

身じろぎもせずに木陰で涼をとり

この句もよくわかります。
木陰で涼をとる・・こういう事を表す片陰という季語があります。

＊片陰に身じろぎもせず旅の町

続いて健さんの句です。

また一つバッジつけ足す登山帽

良いですね、様々な山のバッジのついた登山帽が見えてきます。

鼻筋のおしろい光る祭の子

この句も一瞬で情景が浮かびます。祭の子の顔、その後のお神輿や人々の様子まで・・良い句ですね。

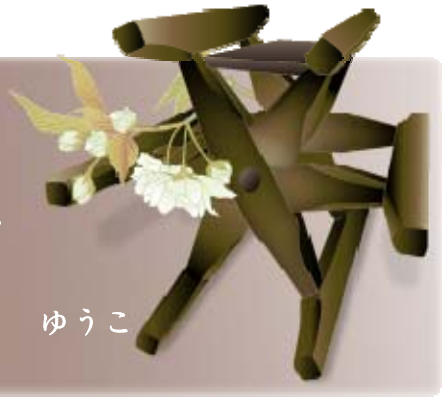
ジーンズの逆さに干さる炎天下

何でもない風景を詠んでいるのに、妙に納得出来る。逆さに干されたジーンズ・・目の付けどころも良いですね。

向日葵の畑に鬱を捨てて来し

元気を貰える向日葵・・一面の向日葵畑の中にいると嫌な事も忘れてしまいそう。
鬱を・・より鬱も・・の方が良いかな・・とも思いましたが、いろいろ考えて、
やっぱり鬱をで良いと落ち着きました。

季語の力を借りる。
ひとつの事柄に焦点を絞り、説明をし過ぎない。
一読して情景が浮かぶ。
そういう事を考えながら作句されるとよいと思います。
次回秋の句楽しみにしております。



日盛りの枷あるごとき歩みかな

無防備の猫涼風の通り道　　ゆうこ